

方向性 4

新たな可能性に挑む

方向性④
新たな
可能性に
挑む

重点施策 1

はつかいちの
新たな魅力を
創造する

関連するSDGs



施策方針

1

新たな都市活力創出基盤の整備推進

対象 市民、市外の人

意図 働く場ができる

現状と課題

【前期基本計画期間の主な取組】

- 新都市活力創出拠点地区である平良・佐方地区における新機能都市開発事業について、地権者、事業協力者及び廿日市市の3者が連携し、各関係機関との協議調整を図りながら事業を推進しています。
- 令和一桁代後半を目標年次とする広島港港湾計画が改訂され、木材港地区においてバイオマス燃料輸入等の新規貨物需要に対応するバルク（バラ積み）貨物取扱拠点として埠頭を再編するとともに、水面貯木場等を活用し、新たな産業用地を確保するための土地造成が位置付けられました。
- 奨励金や助成金の措置を講ずることにより、下平良二丁目地区埋立事業地に商業施設を、工業団地等に企業を誘致し、市内産業の活性化と雇用の創出を図りました。
- 雇用機会の確保や情報サービス産業などの新たなビジネス拠点の創出を促進するため、県と連携してオフィス誘致に取り組みました。

【主な課題】

- 新機能都市開発事業を早期に完了させるため、引き続き各関係機関との協議調整や、地権者の合意形成を図りながら事業を進めていく必要があります。
- 港湾計画の早期実現に向け、関係機関と事業手法や役割分担などについて整理する必要があります。
- 市場調査の結果、産業団地の計画供給面積に対して需要面積が上回っており、新たな事業用地の確保が求められています。
- 新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式の導入に伴い、オフィスの移転や分散化、ワーキングスペースの利用など、地方への関心が高まっている中、企業のニーズを捉え、地域特性を活かした戦略的な取組を行う必要があります。

主な事業内容

基本事業	取組内容
新機能都市開発事業の推進	○ 新都市活力創出拠点地区である平良・佐方地区は、製造系・業務系・商業系施設の立地誘導により、雇用拡大のほか市民の生活環境を支える多様な都市機能について魅力ある拠点として充実させ、交流人口の獲得につなげるとともに、広島圏域の広域拠点にふさわしい機能形成を図ります。
木材港地区の再編・機能強化	○ 広島港港湾計画に基づき、交通ネットワークの強化や水面貯木場を活用した産業用地の創出、脱炭素社会の実現に向けたエネルギー拠点の機能強化など、物流・産業基盤の形成に向けた取組を促進します。
企業留置・誘致	○ 産業インフラの整備として、土地需要への対応や企業の留置・誘致を推進するため、新たな事業用地の確保に向け、調査・検討を進めます。 ○ オフィス誘致に関する市場調査を行うとともに、広島県などと連携してオフィス誘致活動を推進します。

関連計画／産業振興ビジョン、都市計画マスタープラン

新たな都市活力創出基盤の整備による効果

- 新機能都市開発事業は、安芸の宮島との相乗効果が得られる「観光・交流施設用地」、市内企業の移転用地の確保が必要であることを背景とした「工業施設用地」を整備し、優れた立地特性を活かした都市機能を誘導することにより、市内企業の移転又は市外企業の新規立地を促進することで、設備投資及び経営規模拡大などによる新たな財源を確保し、将来を見据えた新たな活力を創出します。更には、宿泊施設などの付加機能による交流人口の増加・雇用機会の拡大など、地域経済の活性化や若者の定住促進につながると期待できます。
- 木材港地区については、臨海部への土地需要の高まりや工場立地の国内回帰といった社会動向をはじめ、木材港背後地に地域雇用を生む生産拠点（臨海部産業用地）が不足している現状を踏まえ、「新たな産業空間の確保」を図ることにより、都市の発展を牽引します。

成果指標

成果指標	現況値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
新機能都市開発事業地に立地が決定した企業の面積割合	—	100%
法人市民税の申告件数	2,615件	2,615件

方向性④

新たな
可能性に
挑む

重点施策 1

はつかいちの
新たな魅力を
創造する

関連するSDGs



施策方針

2

宮島口地区における新たな観光交流拠点の整備

対象 ①宮島口の観光客 ②宮島口地区住民・事業者 ③宮島口地区

意図 ①宮島口旅客ターミナル等を活用し、市内を回遊する

②宮島口周辺における生活道路の渋滞解消など交通が円滑化し、生活環境が向上する

③賑わいが創出される

現状と課題

【前期基本計画期間の主な取組】

- 広島県による厳島港（宮島口地区）の港湾施設整備事業の促進を図り、宮島口旅客ターミナル及び大栈橋が完成しました。宮島口旅客ターミナルには、宮島観光に加え、市内全体の観光案内を行う観光案内所や、情報センター、地域製品の販売を行う物販施設を設置しました。
- 行楽シーズンや正月などの渋滞対策として、交通整理員による既存駐車場への誘導案内や、パークアンドライドなどを行い、渋滞緩和を図りました。
- 渋滞緩和や地区内の利便性・生活環境向上を目的とした市道赤崎3号線及び市道赤崎14号線の道路整備を推進しました。
- 宮島口地区における景観形成の推進を目的に、地元勉強会やワークショップを重ねて、景観構成要素である屋外広告物を含めた景観ガイドラインを策定しました。また、景観計画における景観重点区域の指定や、景観地区の都市計画決定を行いました。
- 景観ガイドラインに定める景観形成基準に基づき、民間の改修工事等に要する費用の一部を補助する制度を設けました。

【主な課題】

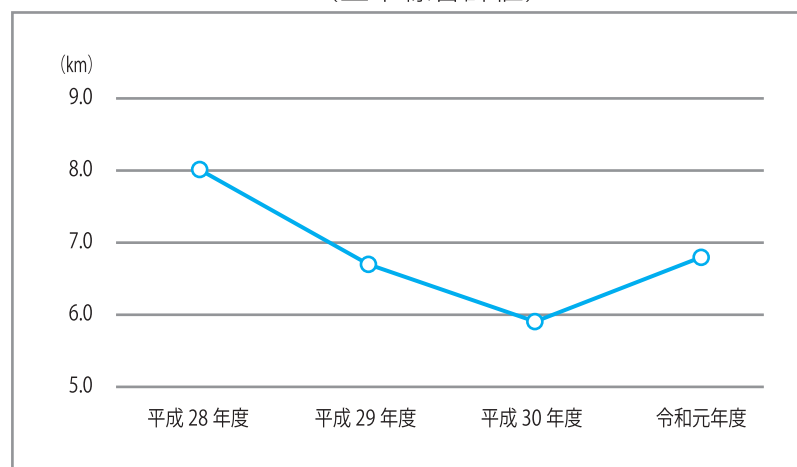
- 宮島口地区の生活環境の改善のため、広島県による港湾施設の整備や市道赤崎3号線の整備について、県と連携し一層推進していくとともに、対岸宮島側の港湾施設についても、機能などを充実させる必要があります。
- 観光交流拠点化を図るため、地区内及び市内全域の回遊性を向上させ、従来の通過型から滞在型へ転換させていく必要があります。
- 宮島口地区については、国際的な観光地の玄関口にふさわしい宮島への期待感あふれる景観の魅力を創造していくため、良好な景観形成に向けた意識醸成が求められます。

主な事業内容

基本事業	取組内容
厳島港（宮島口地区・胡町地区）の港湾整備（広島県）	○ 厳島港（宮島口地区）の臨港道路や緑地、護岸等の港湾施設の整備を促進します。 ○ 厳島港（胡町地区）の港湾施設の機能強化を促進します。
宮島口地区の生活環境の改善	○ J R 宮島口駅の自由通路（橋上化）の検討、市道赤崎14号線の延伸や市道赤崎3号線等道路整備、市営駐車場や公共下水道などの整備を推進します。 ○ 渋滞の著しい国道2号宮島口周辺を対象に、通過交通の広島岩国道路への利用転換を促進します。
宮島口地区の賑わいの創出や景観形成	○ 宮島口地区を新たな観光交流拠点として、事業者や市民などとの連携により、イベントの開催や、他地域との広域的な観光連携など様々な取組を行い、賑わいの創出を促進します。 ○ 道路の無電柱化や美装化などによる景観に配慮した公共空間の整備を推進するとともに、地域住民や関係権利者と連携して、景観ガイドラインに定める景観形成基準に基づく良好な景観形成に向けた意識醸成を図ります。

関連計画／宮島口地区まちづくりグランドデザイン、宮島口地区まちづくり整備計画、宮島口地区景観ガイドライン

観光ピーク期（GW・紅葉期）の平均渋滞長
（上下線合計値）



成果指標

成果指標	現況値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
宮島口観光案内所の案内件数	—	40,000件
観光ピーク期（GW・紅葉期）の平均渋滞長（上下線合計値）	6.8 km	6.3 km
宮島口地区開催イベント参加人数	—	25,000人

重点施策1

はつかいちの新たな魅力を創造する

施策方針2

宮島口地区における新たな観光交流拠点の整備

方向性④

新たな
可能性に
挑む

重点施策 1

はつかいちの
新たな魅力を
創造する

関連するSDGs



施策方針

3

シティプロモーション等による移住・定住・交流の推進

対象 市民、市外の人

意図 廿日市市を知り、好きになり、興味・関心を持ち、交流することで移住・定住につながる

現状と課題

【前期基本計画期間の主な取組】

- 不動産情報誌への広告掲載、移住・定住モニターツアーの開催、定住フェアへの出展など、移住・定住施策のメインターゲットである広島都市圏の子育て世代に対して、居住地としての本市の魅力をPRしました。
- コンセプトブックの制作、広島電鉄ラッピング電車の走行、各メディアを活用したメディアプロモーションなど、本市への興味・関心を喚起する事業を行いました。
- 広島市民球場（マツダスタジアム）での「わがまち魅力発信隊」、東京での「まるごとHIROSHIMA博」への出展など、広島市内や首都圏において広く本市の魅力を発信しました。
- 佐伯支所に定住推進員（平成29年度からは、定住推進担当の地域支援員）を配置し、地域と連携して中山間地域の定住を推進しました。
- 佐伯総合スポーツ公園への大型複合遊具の整備を契機に、中山間地域の回遊促進方策を検討し、実証事業として公園内での飲食販売及び佐伯地域内でのスタンプラリーを実施しました。

【主な課題】

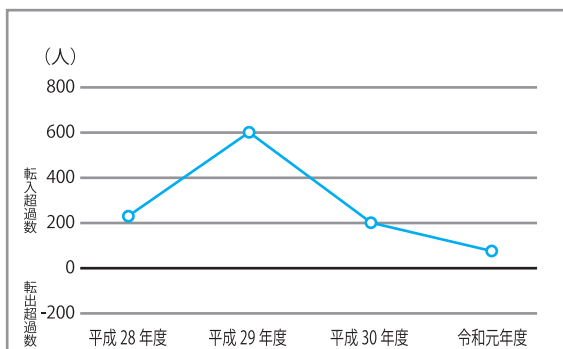
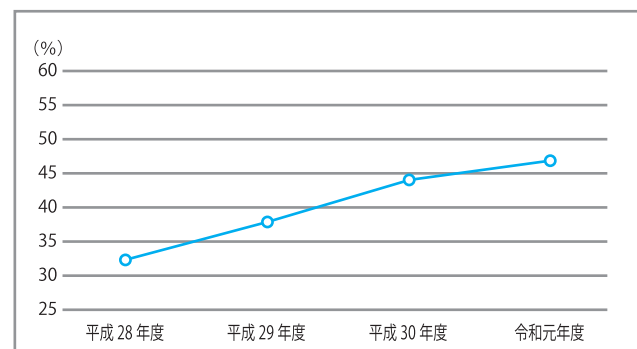
- 廿日市市の居住地としての認知度・好感度の更なる向上につながる取組が必要です。
- 転入超過を継続していくため、転出抑制につながる取組も必要です。
- 市民自らが魅力を広める発信者になってもらう仕掛けが必要です。
- 廿日市市の暮らしに興味・関心がある人が、移住しやすい体制が必要です。
- 地域と連携しながら、中山間地域の定住推進の取組を引き続き行っていく必要があります。
- 地域内外の交流を促進し、交流人口、関係人口等の拡大をめざすため、事業者及び関係団体と一体となって取組を行うための推進体制が必要です。

主な事業内容

基本事業	取組内容
移住・交流の推進	○ 積極的なメディアプロモーションを行い、本市への興味・関心の更なる拡大を図ります。 ○ 移住相談会（オンライン含む）の実施やイベントへの出展により、本市の居住地としての認知度・好感度の向上を図ります。 ○ Webによる配信・広告を活用し、本市の魅力を広く発信します。 ○ 中山間地域への来訪者を他の地区・地域に点在する店舗や観光施設への回遊につなげ、地域内外の交流を促進し、交流人口の拡大及び関係人口の創出を図ります。
定住の推進	○ 市民が本市での生活に、今まで以上の愛着と誇りを持てるよう、地域学習への参加・参画を支援します。 ○ SNSの発信やメディアプロモーションを行い、市民が本市の魅力をより深く認識し、愛着心を育む事業を推進します。 ○ 定住推進担当の地域支援員を配置し、引き続き中山間地域の居住地としての魅力を掘り起こし、発信します。 ○ 地域と連携し、空き家の掘り起こしを行い、空き家バンク制度の充実を図ります。

関連計画／住生活基本計画

人口の社会動態

市の取組を知り、廿日市市に暮らすことに興味・関心がわいた
20歳代～40歳代の率

成果指標

成果指標	現況値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
人口の社会動態	転入超過	転入超過
市の取組を知り、廿日市市に暮らすことに興味・関心がわいた20歳代～40歳代の率	46.8%	60.0%

重点施策1

はつかいちの新たな魅力を創造する

施策方針3

シティプロモーション等による移住・定住・交流の推進

方向性④

新たな
可能性に
挑む

重点施策 2

市民が主役！
チャレンジを
応援する

関連するSDGs



施策方針

1

スポーツや趣味などの身近な挑戦の支援

対象 市民

意図 生涯を通じてスポーツや学びへの意欲を持つ

現状と課題

【前期基本計画期間の主な取組】

- 中学校女子はつかいち駅伝大会等の大会を実施し、市民が「する」「みる」「ささえる」という視点からスポーツに関わる機会を創出しました。
- 社会体育関係団体等に対し講習会を開催し、スポーツ指導者を育成しました。
- 小中学生を対象とした大会の優勝者に対し、はつかいち文化スポーツ市長賞を交付し、スポーツの振興を図りました。
- 一般社団法人全日本女子野球連盟が実施する女子野球の普及・振興と自治体の地域発展をめざす女子野球タウンに認定されました。
- 廿日市市美術展を開催し、市民の芸術発表の機会を提供しました。
- 移動文化教室を実施し、子どもたちが文化芸術に触れる機会を提供しました。
- 演奏家が小学校を訪問するはつかいち平和・ほほえみコンサートを開催し、また、ジュニア弦楽合奏団を設立しました。
- 廿日市地域、大野地域、佐伯地域の各図書館に加え、移動図書館車により図書館から離れた地域へも図書館サービスを提供しました。宮島地域へは、市民センターを通じて図書館サービスを提供しました。

【主な課題】

- 健康寿命の延伸を観点としたスポーツや運動による日常的な健康づくりが必要です。特に女性の運動機会を増やす必要があります。
- 障がい理解したスポーツの指導者や介助者、スポーツ施設等のバリアフリー化などが必要です。
- 市民がいつでも自由に学習活動を行うことができ、その成果が活かされるよう、学習機会の充実や学習情報の提供などを引き続き行うことが必要です。
- 子どもたちが文化芸術に触れる機会を増やす必要があります。
- 図書館においては、館内でのフリーWi-Fiの提供や子ども連れで過ごせるスペースなど、多様なニーズに対応することが求められています。
- 図書の貸出本の返却ポイントの増設など、遠隔地サービスの更なる充実が必要です。

主な事業内容

基本事業	取組内容
スポーツ活動の支援	○ 老朽化しているスポーツ施設等では、ライフサイクルコストを踏まえて計画的に改修し、施設の適正管理に努めます。 ○ 市民が身近な場所で気軽にスポーツを楽しめるように、地域のスポーツ施設等の利便性を向上し、地域のスポーツ活動の場の充実を図ります。 ○ 女子野球タウン構想の実現に向け、女性が利用しやすいスポーツ施設の整備や女性のニーズに合ったスポーツ教室の開催など、女性が生涯にわたって野球などのスポーツ競技を楽しめる環境づくりを推進します。 ○ 民間事業者と連携し、ビジネスパーソン健康の保持増進につなげるため、スポーツ施設の利用促進に努めます。 ○ 障がいのある人がスポーツをする機会の拡大を図ります。
文化・芸術活動の支援	○ はつかいち文化ホールさくらびあ、さいき文化ホール及びはつかいち美術ギャラリーで市民が文化に触れる機会を提供するとともに、施設貸出により文化活動の場を提供します。 ○ はつかいち室内合奏団“SA・KU・RA”や、はつかいちジュニア弦楽合奏団“NO・ZO・MI”を支援し、地域に根ざした音楽活動を推進します。 ○ 廿日市市美術展を開催し、芸術発表の機会を提供します。 ○ 小中学校を対象に移動文化教室事業を実施し、子どもたちが文化芸術に触れる機会を提供します。
図書館サービスの充実	○ 大野図書館では、筏津地区公共施設再編整備に合わせて、施設のバリアフリー化などの環境整備を進めます。 ○ 図書の受取・返却ポイントを増設し、図書館から離れた地域でもサービスが受けられる仕組みをつくりまします。 ○ 情報のデジタル化に対応した資料の収集と提供を行います。
生涯学習活動の支援	○ 市民センターで、学びへのきっかけづくりや、多様な主体との連携の推進、地域の学びと活動の活性化を支援し、多様な人材が活躍できる場をつくりまします。

関連計画／教育振興基本計画、スポーツ推進計画、図書館基本計画

重点施策2

市民が主役！チャレンジを応援する

施策方針1

スポーツや趣味などの身近な挑戦の支援

成果指標

成果指標	現況値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
成人で週1回以上スポーツや運動を行う人の割合	53.7%	62.5%
主要スポーツ施設の利用者数(廿日市市スポーツセンター、佐伯総合スポーツ公園)	495,399人	550,000人
日ごろから文化芸術活動(音楽、演劇、舞踏、美術、伝統芸能、文学など)に親しむ人の割合	42.1%	48.0%
文化ホールの来場者数(はつかいち文化ホール、さいき文化ホール)	155,230人	180,000人
図書館を利用する市民の割合	36.0%	40.0%

方向性④

新たな
可能性に
挑む

重点施策 2

市民が主役！
チャレンジを
応援する

関連するSDGs



施策方針

2

新たなビジネスを創出する起業・創業の支援

対象 起業・創業を考えている人

意図 起業・創業ができる

現状と課題

【前期基本計画期間の主な取組】

- 産業競争力強化法に基づく創業支援等事業計画を策定し、市内経済団体や金融機関等の創業支援等事業者との連携により、食や観光等の地域資源を活用した創業を支援するための創業支援セミナーとして「しゃもじん創業塾」を毎年開催しました。
- 創業意識の啓発として、新たなビジネスへのチャレンジを応援する「はつかいちビジネスチャレンジコンテスト」や中小機構の創業支援プログラム「TIP*S」等を実施しました。
- 市内創業希望者や創業間もない人に対し、事業拠点となる創業支援施設「しゃもじんキューブ」スペースを提供するとともに、各種相談への助言、販路開拓等経営全般にわたる支援をしました。
- 市民活動センターで月2回開催する「市民活動なんでも相談」では、コミュニティビジネスに関する相談も受けることができました。

【主な課題】

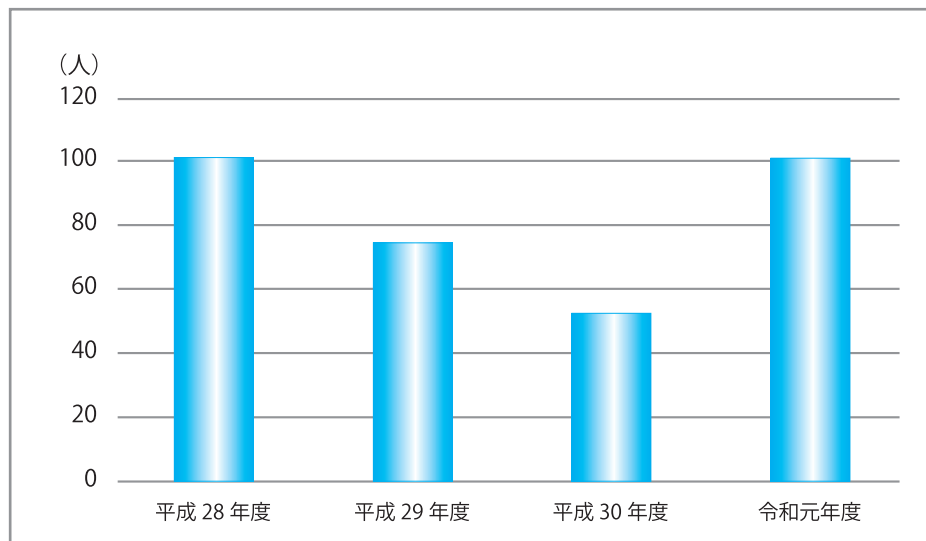
- 創業塾の受講者等への追跡調査やビジネスプランの立案、創業支援施設「しゃもじんキューブ」への誘導等といった創業を考える人材への包括的なアフターフォロー等、受講後のサポートを強化する必要があります。
- 新型コロナウイルス感染症流行の環境下において、リモート・テレワークなどの拡大、新たな生活様式の定着、デジタル・トランスフォーメーション（DX）への対応など、新しい社会での新たな需要に対応した新事業の創出を支援する必要があります。
- 昨今、担い手不足や事業承継が課題となっており、中小企業等の経営力の向上を図るとともに、創業しやすい環境を整備し、起業・創業を促進していく必要があります。
- コミュニティビジネスは地域課題の解決方法の一つであるため、取組を支援する体制の充実が必要です。

主な事業内容

基本事業	取組内容
起業・創業の支援	○ 創業支援等事業者（市内経済団体、金融機関等）との連携により市内中小企業等の経営基盤の強化を図るとともに、事業承継や起業・創業を促進します。また、インキュベーション施設の提供など創業しやすい環境を整備します。 ○ 産業連関による市内での新たな経済循環を創出する事業、首都圏や海外への販路拡大による外需開拓、成長産業へ挑戦する事業などを支援します。
コミュニティビジネスの支援	○ まちづくり活動団体が主体となって、地域に密着した課題を解決するコミュニティビジネスの相談に応じるなど、取組の支援を行います。

関連計画／産業振興ビジョン、協働によるまちづくり推進計画

創業支援等事業計画を活用した市内創業者数



成果指標

成果指標	現況値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)
創業支援等事業計画を活用した市内創業者数	101人	110人

重点施策2

市民が主役！チャレンジを応援する

施策方針2

新たなビジネスを創出する起業・創業の支援

方向性④

新たな
可能性に
挑む

重点施策 2

市民が主役！
チャレンジを
応援する

関連するSDGs



施策方針

3

世界にはばたく人材の育成

対象 子ども

意図 将来に夢と希望を持ち、世界にはばたく

現状と課題

【前期基本計画期間の主な取組】

- 空手日本代表候補選手などOB、OGを含む国内のトップアスリートを招へいし、市内学校訪問交流やクリニックなど、トップアスリートとのふれあい事業を行いました。
- 全国大会や国際大会へ出場する選手、監督等に報奨金を交付し、大会参加や競技へ取り組む意欲の向上につなげました。
- 姉妹都市であるニュージーランド・マスタートン市と交互に学生派遣を行う交流事業、カナダ・ビクトリアへの青少年派遣事業を実施しました。

【主な課題】

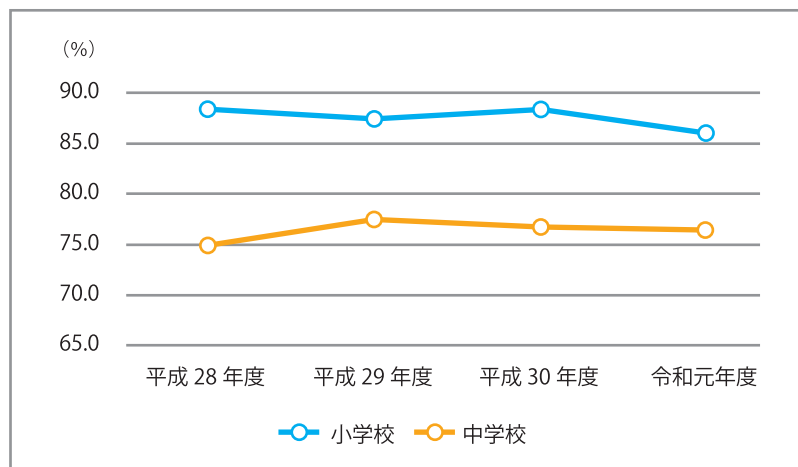
- 国内のトップアスリートを招へいしたふれあい事業を開催していますが、一つのイベントとして終わらず、子どもたちの競技スポーツへの関心を高め、継続してスポーツに取り組む仕組みづくりが必要です。
- 子どもたちをはじめ、競技スポーツに関わる多くの市民が継続して競技スポーツに取り組むことができる環境の整備が必要です。
- 国際的視野を持った次代の国際交流の担い手を育成していくため、ニュージーランド・マスタートン市との交流事業やカナダ・ビクトリアへの青少年派遣事業を今後も継続的に実施していく必要があります。

主な事業内容

基本事業	取組内容
トップアスリートとのふれあい	○ 関係団体と連携し、トップアスリートや専門的な技術を持つ指導者を招いたスポーツ教室を開催することで、子どもたちの競技スポーツへの意欲を高めるとともに、継続的なスポーツ活動を支援します。
トップアスリート支援	○ 関係団体や企業などと連携し、スポーツ傷害への対応や栄養指導など、それぞれの専門的観点からアスリートの育成や支援を行う機会を創出します。 ○ 全国大会や国際大会へ出場する選手、監督等に報奨金を交付し、大会参加や競技へ取り組む意欲の向上につなげます。 ○ 全国大会や国際大会などで優秀な成績を収めた選手を表彰することにより、スポーツ功労をたたえ、競技に取り組む意欲の向上につなげます。
国際的視野の拡大	○ 異文化体験と世界を知る機会を創出し、グローバル社会に通用する人材を育むため、姉妹都市のニュージーランド・マスタートン市との交流事業、カナダ・ビクトリアへの青少年派遣事業を実施します。

関連計画／教育振興基本計画、スポーツ推進計画、国際化推進指針

将来の夢や目標を持っている
児童・生徒の割合



成果指標

成果指標	現況値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
トップアスリートふれあい事業の開催種目数	5 種目	2 種目
トップアスリートふれあい事業への参加人数	702人	200人以上
将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合	(小学校) 85.9% (中学校) 76.4%	(小学校) 88.5% (中学校) 77.5%

